

昭和50年度秋田県に於ける日本脳炎流行予測調査について

原 田 誠三郎* 庄 司 キ ク*

I まえがき

秋田県に於ける昭和50年度の日本脳炎流行予測調査は、昭和42年度（須藤たち：1968）¹⁾からの継続事業である厚生省委託調査に県単独調査を加えて実施したが、本報ではこれらの調査成績について報告する。

II 材料及び方法

A. 被検豚血清

表1に示すように、県内3ヶ所の各と畜場を選定し、1回につき20頭、合計540頭の豚血清を採取した。すなわち、厚生省委託調査のと場豚血清は本県中央部の秋田畜産公社と場を選定し、昭和50年4月から昭和50年12月までの期間採取した。ただし、昭和50年4月から6月までと10月から12月までの期間は県単独調査として実施した。また、県内全般の状況を明らかにするために、県北部は大館と場、県南部は横手と場を選定し、昭和50年7月から9月までの3ヶ月間、県単独調査として実施した。

表1. 検査材料採取表

と畜場名	区域	採血期間	採血豚数 (生後5~8ヶ月)	備考
秋田畜産公社と場	県中央部	S.50年4月 — S.50年12月	420	厚生省委託調査
大館と場	県北部	S.50年7月 — S.50年9月	60	
横手と場	県南部	S.50年7月 — S.50年9月	60	県単独調査

B. 日本脳炎H I抗体価測定方法

日本脳炎H I抗体価測定方法は厚生省指定の方法²⁾に従った。

本脳炎H I抗体価測定調査を実施した結果、表2及び表3と図1に示す調査成績が得られた。すなわち、昭和50年度の日本脳炎H I陽性豚の出現時期は昨年度よりも1週間早い4月の第3週目にH I陽性豚（陽性率5%）が出現し、以後12月の第2週目までH I陽性豚出現率は例年なく各月とも低率（0~5%）な傾向を示した。本年度におけるH I抗体陽性率のピークは10月第3週の70

III 調査成績

昭和50年度の厚生省委託事業及び県単独調査として日

表2. 昭和50年度日本脳炎流行予測調査（と畜場豚のH I抗体価測定）—厚生省委託事業

と畜場名	採血検査 年月日	H I 抗体価								H I陽性数 ≥ 10 (陽性率)	2ME感受性抗体保有数(保有率)	H I陽性豚の飼育地および頭数	
		頭数	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	
秋田畜産公社と場	S.50.4.17	20	19	1								1 (5%)	
"	5.16	20	20									0	
"	5.26	20	20									0	
"	6.12	20	20									0	
"	6.23	20	20									0	
"	7. 1	20	19	1								1 (5%)	南秋田郡-1
"	7. 7	20	20									0	
"	7.15	20	20									0	

*秋田県衛生科学研究所

"	7.21	20	20							0			
"	7.28	20	20							0			
"	8. 4	20	19	1						1 (5%)			
"	8.11	20	20							0			
"	8.18	20	20							0			
"	8.25	20	20							0			
"	9. 1	20	19	1						1 (5%)	秋田市-1		
"	9. 8	20	19	1						1 (5%)	秋田市-1		
"	9.17	20	19				1			1 (5%)	1(100%)	秋田市-1	
"	9.25	20	17					1	2	3 (15%)	1 (33%)	秋田市-1 南秋田郡-2	
"	10.13	20	6						4	10	14 (70%)	0	南秋田郡-14
"	11.25	20	20							0			※
"	12.12	20	19		1					1 (5%)		秋田市-1	※
計		420	396	4	2		1		1	6	10	24(5.6%)	

※ 厚生省委託事業以外の調査

表 3. 昭和50年度日本脳炎流行予測調査（と畜場豚のH I 抗体価測定）

と畜場名	採血検査年月日	H I 抗体価								H I 陽性数 ≥ 10 (陽性率)	2 ME感受性抗体保有数(保有率)	H I 陽性豚の飼育地および頭数	
		頭數	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280		
大館と場	S.50 7.24	20	20									0	
"	8.26	20	20									0	
"	9.22	20	20									0	
小 計		60											
横手と場	S.50 7.22	20	19		1							1 (5%)	平鹿町-1
"	8.25	20	19	1								1 (5%)	平鹿町-1
"	9.29	20	18						2			2 (10%)	0 横手市-1 大雄村-1
小 計		60											
計		120	116	1	1				2			4(3.3%)	

表 2. } 合 計 | 540 | 512 | 5 | 3 | 1 | 3 | 6 | 10 | 28(5.2%) |

%にあったが、2 ME感受性抗体は認められなかった。

次に、県単独調査として県北部の大館と場、県南部の横手と場の豚血清を、昭和50年7月から9月までの期間調査し、表3に示す結果を得た。すなわち、横手と場豚においては7月から9月までの期間に日本脳炎H I陽性豚（陽性率3.3%）の若干出現がみられたが、昨年度の日本脳炎H I陽性率6.7%よりも低率であった。また、大館と場においては7月から9月までの3ヶ月間日本脳

炎H I陽性豚の出現は認められなかった。

このように、本年度においては全般的に県内各と畜場の日本脳炎H I陽性率が低い傾向を示したことから、この要因を今後解折していく考えである。

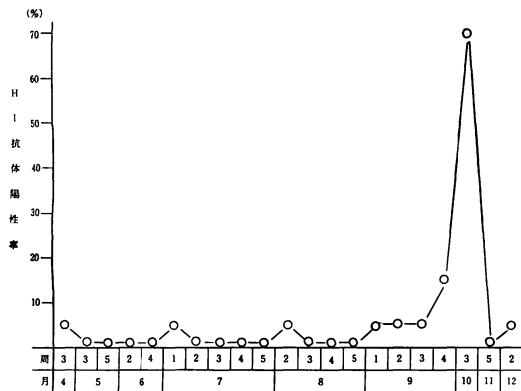


図 1. 昭和50年度日本脳炎H I抗体調査成績
(対象: 秋田畜産公社と場豚)

IV まとめ

昭和50年度の厚生省委託及び県単独の日本脳炎流行予測調査成績は次のとおりであった。

1) 県中央部の秋田畜産公社と場における日本脳炎H I

陽性率は 5.6%で昨年度のH I陽性率 9.2%よりも低い傾向を示した。また、10月の第3週目に70%の高値のH I陽性率を示し、本年度のH I陽性率のピークを示したが、2 ME感受性抗体は認められなかった。

2) 県単独調査としては、横手と場が、大館と場よりも豚のH I陽性率で 3.3%と高く、大館と場豚の約3倍であった。

稿を終るにあたり、と場豚採血に御協力をいただいた秋田保健所、大館保健所、横手保健所、秋田畜産公社の担当各位に深く謝意を表します。

文 献

- 1) 須藤恒久たち：秋田県に於ける日本脳炎ウイルスの侵淫について昭和42年日本脳炎流行予測事業を中心として、秋田衛研所報、No.12, 71-76 (1968)
- 2) 厚生省公衆衛生局保健情報課：昭和50年度伝染病流行予測調査実施要領 (1975)